

パネルシアターで 音楽遊び

“音楽と一緒に楽しむパネルシアター”では、短いストーリー（例えば、いろいろな動物 → ケーキが食べたい → 好物のケーキを作ってあげよう）を、登場するものを変えて繰り返していきます。

音楽も、覚えやすく口ずさみやすい短いフレーズを繰り返し、進行のきっかけにします。手拍子やかんたんな動作を加えていくと、一体感も増していきます。

手遊びや歌遊びと同じように、みんなと一緒に楽しむプログラムです。



イラスト：いがき けいこ

□年齢による参加型の変化□

ケーキに飾り付けをしている間、子どもたちは吸い寄せられるようにじっとパネルを見つめています。色とりどりの果物や野菜が描かれたパーツが、子どもたちは大好きで触ってみたいと仕方がありません。飾り付けがしてみたいという大人もいると思います。子どもが前に出てくるのも当然なのです。

それならば子どもたちに、パーツをはってもらおう、飾り付けをしてもらおう——と、お願いすることにしました。

主に2歳以上の場合、「うさちゃんのにんじんを飾ってくれる人」と言葉がけをすれば、「はい！」という声が続いてきます。にんじん、バナナ、どんぐり——動物たちの好物を渡すと、どの子どもも大切そうに「ケーキ作り」してくれます。

0～1歳の場合は、子どもだけでは難しいので、大人にも参加してもらうようにします。「うさぎさんの好きなものは何ですか？ 皆で言ってみましょう。せ～のっ」などと問いかければ、お母さんたちから大きな声で一緒に「にんじん～！」という返事が返ってきます。パネルシアターは子ども向けの遊び、と思われがちですが、大人にとっても意外と楽しいものです。

「うさぎさん音楽とともにカラフルなイラストが目の前で展開していく」「お母さんたちが楽しそうに参加している」雰囲気を感じ取って、子どもたちも「なんだかとてもいい気分」になってきます。

みんなが参加する 音楽と一緒に楽しむパネルシアター

広く行われているパネルシアターや紙芝居にも“音楽”を使っているものはたくさんあります。“おはなし”は、ストーリーがしっかりしていて、“音楽”は、場面の雰囲気やあらわす音楽や効果音などとして使われています。つまり中心となる“言葉”に“音楽”がつけられています。

“音楽と一緒に楽しむパネルシアター”で中心となるのは、“音楽”と“視覚”です。“おはなし”は簡潔で“言葉”のウエイトが低いいため、低年齢の子どもたちにも伝わりやすく、少し大きくなった子どもたちには自由にイメージをふくらませることが出来ます。

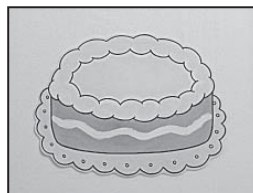
作品を作るときには、起承転結のある“おはなし”よりも、“どういった雰囲気にしたいか”“どんな感情を共有したいか”を考えます。それにあわせて“音楽”などを作っていきます。

ケーキ・ケーキ

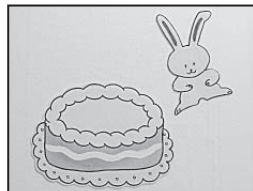
●みんなで歌って、手拍子をして、みんなで作る動物たちの好きなものにあわせた特別なケーキ

言葉にすれば「あまくておいしいケーキ。最初はうさぎのケーキ」ですむところを、“メロディー(ふし)”をつけて、“繰り返し歌って”いきます。

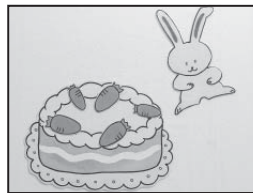
かわいいデコレーション、あまいクリーム、やわらかいスポンジケーキ——繰り返し歌っていくうちに、いろいろなことが頭に浮かび、“わくわく・うさぎ”してきます。動物たちも、喜んでくれるにちがいありません。



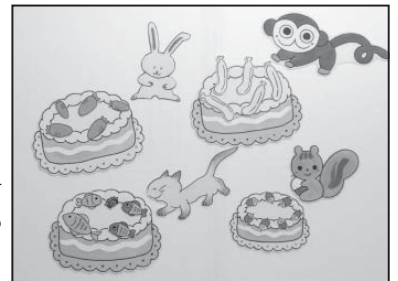
「だれのケーキかなあ。
お歌を歌うと、だれかが出てくるよ。
みんなも一緒に歌ってくれる？」
♪ケーキ ケーキ ケーキ あまくておいしいケーキ
ケーキ ケーキ ケーキ 最初はうさぎのケーキ♪
※楽譜は裏面にあります。



(うさぎ登場)
「うさこもケーキ食べたいよお」
「うさちゃんは何のケーキが好きなのか知ってる？」
「にんじんケーキだよ。みんなもケーキのにんじんを飾ってくるかなあ？」



(子どもたちに飾り付けをしてもらいます)
「うさちゃんのケーキができあがり！おいしそうだね」



うさぎはにんじん、りすはどんぐり、さるはバナナ、ねこはさかな——いろいろな動物の好物のケーキを作ります。

□短いフレーズの繰り返し□

『ケーキ・ケーキ』では、短いフレーズの音楽を繰り返し用いています。子どもたちが自然に口ずさめるように、「簡単な言葉」「親しみやすいメロディー」であることが大切です。わらべ唄などに用いられている「唱えことば」でもかまいません。このフレーズは、何回も繰り返し用いて、進行のきっかけにしています。

フレーズには、みんなで一緒に歌えるように、“リズム”をつけます。難しく考えることはなくて、“手拍子”や“動作(動き)”を加えていくようにします。「うんとこしょ」といも掘ったり、「ぺったんこ」ともちをついたりするようなかんたんな“動作(動き)”です。みんなで歌うこと、みんなで手拍子・動作をすることで、一体感が生まれ、盛り上がります。

●最後は「お誕生会」 特大のバースデイ0,, ケーキを作ります

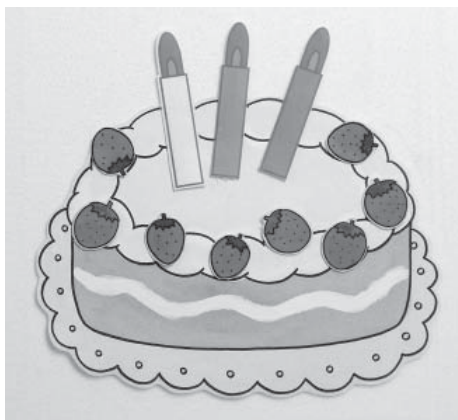
動物たちのケーキを完成させたあとは「みんなのケーキを作ろうね」と言って、特別大きな「ケーキ」を登場させます。

「みんなのケーキには何をのせる?」と子どもにたずねれば、ほぼ100%の確率で“いちご”という答えが返ってきます。子どもたちにとっての、“みんなの”そして“特別な”ケーキは、「いちごのケーキ」のようです。

いちごを飾り付けて、特大のいちごケーキを作ります。完成したら、その月にお誕生日を迎える子どもを探し、いよいよ「お誕生会」です。

お誕生日月の子どもと親に前に出てきてもらい、“ろうそく”を渡し、ケーキに立ててもらいます。そして、全員で誰もが知っているお誕生日の歌『ハッピーバースデイ』を歌います。特別に声かけをしたり、お願いをしなくても、会場にいる大人も子どもも全員が笑顔で歌ってくれます。

歌が終わったあとには、お誕生日の子どもが思わずろうそくを吹き消そうとして、パネルのケーキやろうそくが飛んでしまうなどという、ほほえましいことが起きたりします。



●パネルシアターと“音楽”の組み合わせ生かす

“音楽と一緒に楽しむパネルシアター”では、“参加する音楽”だけではなく、“雰囲気を作る音楽”を大切にしています。お化け屋敷で恐ろしい音楽、遊園地でにぎやかな音楽が流れているのは、“音楽”が楽しい、怖いということを連想させ、雰囲気作りをしているからです。

“おはなし”のイメージにつながる音楽を繰り返し演奏し、歌うことで、会場を一つの雰囲気で包みこむことができます。動物がでてくる“おはなし”ならば、それぞれの動物の歌（『アイアイ』『犬のおまわりさん』『ぞうさん』など）、季節感のある“おはなし”なら、みんなが知っている童謡など“なじみのある歌”がおすすめです。既存の曲を使って、“音楽と一緒に楽しむパネルシアター”を楽しんでください。

『ケーキ・ケーキ』では、あまくて、やわらかいケーキのイメー

□ケーキ・ケーキ□（作詞・作曲：佐久間智子）

F C7 C7 F

けーき けーき けーき あまくておいしい けーき

F C7 C7 F

けーき けーき けーき さいしょはうさぎの けーき

□「お誕生日会」へ発展□

パネルシアター『ケーキ・ケーキ』は、「最後はみんなのケーキを作ろうね」と大きなケーキを作ったところでおしまいでした。

ある時、子どもたちのなかから「お誕生日のケーキだ!」という声があがりました。また、「おいしそうだね」「お誕生日に食べようね」と親子で話している様子もよく見かけました。

親にとっても子にとっても、ケーキというのは“ちょっと特別”で、誕生日を連想したり……幸せがぎゅっと詰まった存在であることを知り、パネルシアターの最後に「お誕生会」を始めました。

「〇月生まれさんはいますか〜?」と聞くと、2歳児以上は自分で「はいっ」と手をあげますが、初めてお誕生日を迎える0歳児や1歳児は、お母さんがうれしそうに手に手を添えてあげてくれます。

お誕生日月の親子がパネルにろうそくを飾っている間、他の親子はみんなニコニコしながら見守っています。親にとっても他の子どもの成長を見る機会です。「ハッピーバースデイ」の歌は、だれもが自然と口ずさんでくれます。

歌とパネルシアターで会場が一体となり、あたたかな雰囲気に含まれて、『ケーキ・ケーキ』のパネルシアターは終わります。終了後、パネルシアターのまわりにはケーキとともに写真を撮る親子、動物たちをなでたり、ろうそくをはってみたい子どもたちのほほえましい姿をみることができます。

ジを出したいので、かわいくて、うきうきするオリジナルの曲（メロディー）を使っています。「あまくておいしいケーキ さいしょはうさぎのケーキ」という言葉をメロディーにのせて、何度も何度も繰り返し歌います。

簡単なフレーズを何度も繰り返すのは、一緒に参加して歌ってほしいからです。歌えないならば手拍子で、小さな乳児であれば雰囲気を感じてくれるだけでも良いのです。“雰囲気作り”と“参加”の2つの役割があります。

“パネルシアター”と“音楽”——それぞれの役割を最大限に生かして、子どもたちと世界を共有できるようにプログラムを組み立てます。“音楽”が会場の雰囲気を作り、そのなかで“パネルシアター”が行われます。

パネルシアターは見るだけではなく、一緒に歌ったりしているうちに、子どもたちもパネルシアターの世界に入り込んで、演者と一体となってもりあげます。“楽しい”気持ちをみんなを感じあいます。

●楽しさやおもしろさをみんなで共有

幼児期には、想像する力が発達します。“ごっこ遊び”が大好きなところで、“空想”のなかで遊び、学んでいきます。平面に描かれたパネルシアターの動物に近づいてきて「よしよし」となでたり、ケーキのろうそくを「ふーっ」と消そうとします。心のなかのさまざまな感情を、ゆだねやすいのかもかもしれません。

子どもたちが身近に感じている“パネルシアター”と、“音楽”を結びつけた“音楽と一緒に楽しむパネルシアター”をとおして、楽しさやおもしろさをその場にいる人たちと共有し、みんなで良かったねと顔をほころばせることができたら、とても素敵なことではないでしょうか。